

令和元年度市長との小学校区意見交換会（五条川小学校区）記録

日時 令和2年2月8日(土)

午後2時～3時30分

場所 多世代交流センターさくらの家

出席者 一般市民 42名

市長、副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、建設部長、
教育こども未来部長、地域問題研究所 池田氏（コーディネーター）、
事務局（秘書企画課）

テーマ「第5次岩倉市総合計画策定に向けて」

1 あいさつ

- 2 第4次岩倉市総合計画基本計画の総括 秘書企画課主幹
第5次岩倉市総合計画の展望 市長

3 意見交換

(1) 安心していきいきと暮らせるまち（健康・福祉）

(2) 自然と調和した安全でうるおいのあるまち（環境・防災防犯）

【意見等】 五条川は観光資源であるが、雨が降ると越水してしまう。安心して暮らせるように対策をしてほしい。また、基本計画にしっかり加えていただき、進捗状況を住民に報告してほしい。

【市長】 安心・安全の分野は市の最重要課題として認識している。河川の整備については愛知県が所管し、治水対策を計画に基づいて進め、見直しも行われている。治水対策として、市では五条川小学校のグラウンドに調整池を設置する工事を現在行っている。また、上流の各市町村を含めた計画を策定し、計画に沿って治水の政策を進めている。総合計画にも記載し、バランスよく進めていくことが大切なので、越水する箇所なども計算しながら進めていく。進捗状況については、できる限り分かりやすく市民に説明したいと考えている。

【意見等】 今の説明では、先が全然見えず、解決できないと感じた。平成橋から南の地域は、雨が降ると度々越水している状況である。河川の掘削や流れを良くするなどもう少し具体的な対策を行ってほしい。

【意見等】 五条川小学校の調整池は、どのくらいの効果があるのか。

【市 長】 治水対策については、国・県・市が力を入れて行っている。国では、浚渫工事への補助金拡大などを行っていると言っている。事業主体である県に今後も五条川の状況等を伝え、要望していきたい。また、五条川と小牧を通る合瀬川の上流から入ってくる水の量を4：6になるように改修工事も行われた。この工事により、岩倉市は晴れているが、犬山市などの上流で雨が降り、五条川が越水するという状況が緩和されると考えている。いずれにしても時間も予算もかかるため、徐々に進めていく。

五条川小学校の調整池は1,850 m³の収容量である。

(3) 豊かな心を育み人が輝くまち（生涯学習・教育）

(4) 快適で利便性の高い魅力あるまち（都市基盤）

【意見等】 水道管が古くなっているが、現在はどの辺りの取り換えを行い、耐震化率はどのくらいか。

【意見等】 石仏駅東口改札口の進捗状況はどうか。

【意見等】 資料3で井上町が住宅系拡大検討ゾーンになっているが、農村環境保全ゾーンにもなっているので、矛盾していないか。また、八剣町検討区域は農地保全ゾーンになっているので、産業系拡大検討ゾーンになるのはおかしいのではないか。

【意見等】 一宮春日井線はいつ開通するのか。生活道路に車が入ってきて危ないので、早く通してほしい。

【意見等】 現在の学校給食センターにて食物アレルギー対応を行っているが、食物アレルギーには様々な種類があるので、対応できるものの枠を広げてほしい。

【市 長】 水道管の耐震化率は、平成30年度末で33.8%である。順次、耐震管への取り換えを毎年計画的に実施している。石仏町の配水場から始まり、現在は名古屋江南線の辺りまで完了している。市内全域の取り換えには時間がまだかかるが、地震による液状化現象が発生した場合には、水道やガスなどがまず被害を受ける。災害時に水道やガスなどのライフラインの確保は重要であるので、今後もしっかり進めていきたい。

石仏駅東側改札口については、名古屋鉄道との協議を行い、着実に進めている。地元説明も行い、駅舎やトイレ、ロータリーの話もしている。しかし、まだ様々な調整を行っているため、いつまでに完成するかなどの具体的な話ができない。

土地利用について、通常、市街化調整区域は自由に建物を建てら

れないが、県の規制緩和により井上町は建物が立てやすい。また、石仏駅にも近いなど好立地であるため、住宅系拡大検討ゾーンとしている。また、八劔町の検討区域については、仮に開発していく場合には、川井野寄工業団地と同様に開発によって影響がないよう行っていく。

一宮春日井線については、小牧市との足並みを揃えることが重要である。矢戸川に橋を架けることが岩倉市側の最大の課題であるが、小牧市側では企業に立ち退きしてもらう必要があるため、それが進まなければ、工事も進められない。交通安全についても県や一宮建設事務所の担当者、警察にも機会があれば話をしている。できる限りの努力はしていくが、県や小牧市との調整が必要となり、岩倉市だけではできない。また、具体的ことはまだ話せないので、進み次第、示していきたい。

アレルギー対応について、現在は卵と乳のみの対応である。アレルギーは、命に関わることであるため、慎重に対応していきたい。アレルギー対応品目の拡大については、一つずつ段階を踏みながら将来的には増やしていきたい。

(5) 地域資源を生かした活力あふれるまち（産業）

(6) 市民とともに歩む ひらかれたまち（協働・行財政運営）

【意見等】 耕作放棄地が急速に広がっている。田んぼの担い手は比較的に見つかりやすいが、畑の担い手は見つからない。畑を借りている人の高齢化や販路がなくなっていること、また、企業に駐車場として貸していたものが企業の縮小に伴い、返還され農地に戻っていることが原因である。この問題は放置すると大変なことになるため、住民と市が協力して、どのような活用できるのかを検討してほしい。

【意見等】 公共施設の再配置計画の中で、北部保育園と仙奈保育園、あゆみの家を統廃合するとある。しかし、最近では五条川小学校区の地域では若い世代が増えているため、子どもを預ける施設が必要である。今後、その役割は認定こども園や民間の施設に託そうとしているのか。

【意見等】 先ほども農地の話が出たが、農地を借りている人がやりっ放しにし、草が生い茂っている状態で放置していることがある。貸している人は、人に貸して任せているから良いという話ではなく、しっかり管理してほしい。

【意見等】 自分の保育士時代に担任をしていた卒園生と会ったときに、思

い出を語ってくれたことが、すごく嬉しかった。岩倉市の保育園は心を育てる魅力的な場所である。保育園などの人を育てる場所にお金がかかることは仕方ないのではないか。市には統廃合についてきちんと考えてほしい。

【市長】 農業について、高齢化や後継者不足、休耕地をどうしていくのかという問題など農業をしている人が抱えている問題は多くあると認識している。また、残すべき自然や農地があり、その残した農地は耕作し続けなければならないため、その政策についてJAと協議しているところである。現在も、農業に関わったことのない人たちに農地を有効的に活用してもらえる方法の検討や様々な事業を展開しているが、まだ大きな成果は出ていない。しかし、これは大変重要なことであるため、計画に盛り込んで岩倉市としての方針をしっかりと示したい。

保育園の今後について、自分も思うところはある。市民の皆さんの大切な思いをしっかりと受け止めながら、政策を推進しなければならないと考えている。市民からいただいた税金を有効に活用することは行政の義務であり、限られた予算をどの分野に分配するのかにはいつも悩まされている。市民の要望を聞かないということではなく、新たな事業を行う際には、地域の皆さんや利用者などの声を聞きながら進めている。

民営化については、行政が全く責任を負わないということではない。また、民間の保育園・幼稚園・こども園が持つ特性、ノウハウを活用したほうが良いこともあるため、行政として守るべきことは守りながら、保育や教育の選択肢を広げたい。総合計画の中に、細かいことまで盛り込むのは難しいが、別に計画されていることもあるため、それとの整合性を取りながら進めていきたい。

【ご意見カード】

- ・五条川増水時に浸水のおそれのある家に対し、土台のかさ上げの補助（支援）で個別対応の検討をしてほしい。堤防のかさ上げや掘削には時間を要する。
- ・江南市では名鉄線の高架化が進んでいる。岩倉市では高速道路があるため、これを超えるための長いスロープが必要となり、高架化はできないと聞いている。しかし、それは正しい判断なのか。最近の高速道路はずいぶん高いところを通っているのをよく見る。名神高速道路も開通から半世紀以上経ち、大規模な改修工事も必要になると思うので、そのタイミングでより高い高架にすることもできると考える。関係者と将来に向かって、検討してほしい。